

★今週の聖句

「あなたがたの願う平和は彼らに与えられる」

マタイによる福音書 10章13節

★ねらい

- ・イエスさまに一人ひとりが必要とされ、この世界へと送り出されていることを知る。
- ・力不足を補い、支えて下さるイエスさまがおられる安心感を分かち合う。

★ 説教作成のヒント

- ・私たちが悲しむときには、イエスさまは人を遣わして支えて下さる。苦しむ人が居れば私たち自身が御言葉によって励まされ（イエスさまに背中を押され）、その人のもとへと遣わされる。
- ・子どもたちへとお話しされるあなた自身を、イエスさまは必要とされている。

★ 豆知識

- ・イエスさまは町や村を訪れ、そこで病気に苦しむ多くの人や、どう生きていけばいいのか分からず路頭に迷っていた人々と出会い、世界の現状を深く憐れまれた。この「憐れむ（スプラングニゾマイ）」という語は、「はらわたが痛む」ことを意味する。古風な日本語の言い回しでは「断腸の思い」に等しい。イエスさまにとって、苦しむ人の痛みは他人事ではなかった。
- ・イエスさまは、ご自身お一人で頑張るのではなく、世界中の人々と出会うために12人の弟子たちを召し出され、大変な思いをして生きている人のところに送り出された。頼りない弟子たちだったが、平和の実現を信頼して任せられた。
- ・弟子たちは、“イエスさまから預かった力”を出会う人に手渡した。つまり、力不足であっても、後のことは神さまが責任をもって支えてくださるということである。

★ 説教

あるとき、とても困っているおともだちが居たのに、どうしたらいいのか分からなくて、助けてあげることができなかったことがありました。そのおともだちは独りぼっちで泣きながら、家に帰っていきました。

もし、自分が困っているときに、誰も助けてくれなかったら、悲しくて涙が出てくると思います。気づかないふりをすることがとてもひどいことだと、その時気づきました。わたしが悲しい時、おともだちと一緒に居てくれるだけで元気が出てきます。だから、これからは困っている人がいたときに、何もできなくても一緒にいてあげようと決心しました。

イエスさまは、いつも独りぼっちで困っている人をいつも助けていられました。悲しい思いをしている人を見ると、イエスさまとても悲しい気持ちになったからです。だから、寝る暇も惜しんで、イエスさまはたくさんの人と出会っていられました。

でも、たくさんの人を助けても、まだまだ世界には辛い思いをしている人がいっぱいいました。そこで、イエスさまは12人のお弟子さんたちに困っている人を助けに行くように言われました。12人のお弟子さんたちがいれば、もっとたくさんの人たちを助けられるからです。

旅に出たお弟子さんたちは、“本当に困っている人を助けてあげることができるかな”と不

安でしたし、食べ物もお金も着替えも、何も持っていきませんでした。でも、神さまの力に支えられながら、無事たくさんの人たちを助けることができたのです。

今日、「あなたがたの願う平和は彼らに与えられる」（マタイ10:13）という聖書を読みましたが、“あなたがたにはイエスさまの力が預けられているから、心配しなくていい。しっかり助けられるよ”との励ましの御言葉です。お弟子さんたちだけではなく、あなたにもイエスさまは力を下さっているのです。

あなたの周りにも困っていたり、悲しい思いをしている人はたくさんいます。イエスさまは、それを見てとても悲しんでおられます。だから、“わたしが力をあげるから助けてあげて”と、あなたを必要とされているのです。

おともだちが困っている時、「助けてあげることができるかなあ」と不安になることがあります。勇気をふりしぼって近寄っても、悲しい気持ちを全部なくしてあげることは出来ないかもしれません。でも、イエスさまが力を分けて下さって、一緒にいてくださるから心配はいりません。安心して困っているおともだちのところに行って、一緒に居てあげてください。そのことを、イエスさまはとても喜ばれます。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

85番

改訂137番

Thuma Mina② 24番

（Thuma Mina は、つかわしてください という意味の賛美歌で日本基督教団出版の世界からの賛美歌集）。詳細（日本基督教団 web サイト）：<http://bp-ucc.j.jp/publications/book/4818405272/>

やってみよう

- ・お弟子さんの名前を覚えましょう。
日本児童福音協会 ふくいん子どもさんびか 「12でしのなまえ」
- ・名前から想像してお弟子さんの顔を描いてみましょう。

話してみよう

- I. ①自分自身や周囲にいる人の悩みを考えてみる。
②自分自身として、してほしいことを考える。
- II. アンテナを張りながら、一日を過ごしてみよう。
顔や態度に表れていなくとも、心が引き裂かれそうなほど苦しんでいる人が居るかもしれません。周りを見渡して、人の抱える悩みや苦しさを感じ取ってほしい。

★今週の聖句

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」

マタイによる福音書 10章 33節

★ねらい

- ・一人ひとりが等しく神さまに愛されていることを伝える。
- ・その神さまの御心を大切にして、苦手な人をも大事に出来るように促す。

★ 説教作成のヒント

- ・「神さまの御心」と「人の価値判断」との間にある深い溝に目を向ける。
- ・イエスさまは、社会の常識にはじかれた人のために弟子を派遣された。その道を歩む上で不安をもつ弟子たちへと、イエスさまが語られた「励まし」を御言葉から聴きとる。

★ 豆知識

・イエスさまが十字架にかけられたのは、当時の聖書の専門家たちにとって、人々を惑わす危険人物とみなされたから。「イエスさまを信じる」ことが、同時に「イエスさまを気に食わないと感じていた人を敵に回す」ということになる。傷ついた人へと手当にいく弟子たちは、そのような人々から酷い目にあわされる可能性があった。だからこそ、主イエスは「すべきこと」や「持ち物」からはじめ、「挨拶の仕方」や「逃げ方」に至るまで教え、締めくくりに「心構え」を弟子たちへと伝えられたことを覚えてほしい。

★ 説教

大阪の「釜ヶ崎」という場所には、仕事を探して集まってきた方々がいます。中には、仕事がないためにお金がなくて道路で生活している人もいます。夏はとても暑く、冬は凍えるほど寒いので、釜ヶ崎に住む「おっちゃん」たちはとても大変です。そこに、本田哲郎さんという一人の神父さんが、釜ヶ崎で生活をして困っている「おっちゃん」たちを支えているのですが、この人が「おっちゃん」たちと一緒に聖書を読むために、普段私たちが使っている日常の言葉に訳した聖書を書きました。今日の聖書の御言葉は、次のように書かれていました。

「二羽のすずめが三百円で売られているのではないか？その一羽さえ、あなたたちの父のゆるしなしに、地に落ちることはない」（マタイ10:29 本田哲郎訳）。

300円といえば、みなさんのお小遣いよりも安いかもしれません。しかも、二羽で300円ですから、一羽はたった150円です。でも、イエスさまは「この小さなすずめでも、神さまが命を与えて、大切にしているんだよ」と、お弟子さんたちに教えられました。

大きさや形に関係なく、虫も動物も樹も、生きているものはすべて神さまに大切にされています。その中でも特に人間を、つまり、ここにいる一人ひとりを神さまは大事にしておられます。神さまにとって、小さな命などありません。一人ひとりの命はどれも大切なのです。

おともだちよりもできないことが多くても、苦手なことがたくさんあって笑われても、神さまはいつも「あなたは素敵だよ。大切だよ」と、思っていてくださいます。大人になってもうまくいかないことや失敗することはたくさんあります。でも、神さまはいつまでもあなたのことを愛してくださいます。だから、何も心配しなくもいいのです。

そして、あなたも神さまと同じように、おともだちへと「大切だよ。ここにいてくれて有り難う」と伝えて、助けてあげてください。そのことを神さまはとても喜ばれます。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

102番

改訂96番

Thuma Mina① 27番

(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の賛美歌で日本基督教団出版の世界からの賛美歌集)。詳細(日本基督教団 web サイト) : <http://bp-uccj.jp/publications/book/4818405272/>

やってみよう

- ・売られている動物(犬・ねこ・その他)の値段を調べてみよう。
そして、その値段は誰がつけているのかな・・・
自分の命の値段をつけてみよう。
- ・その値段の理由をみんなで話し合ってみよう。
- ・神様にとって、私の命はいくらか考えてみよう。

話してみよう

- I. ①たとえば、路上で生活しているホームレスの方についてどう思うかを分かち合う。
②日常の中で、人を見下したり順位をつけたりしていないかを考える。
- II. 神さまは、一人ひとりを「最も良い」と言われ、大切にしておられる。
苦手な人であっても、「神さまは、この人も大切にしているんだな」と考えながら関わってみよう。

★今週の聖句

「わたしのために命を失う者は、かえってそれを得る」

マタイによる福音書 10章 39節

★ねらい

・間違っていることはハッキリと「間違っている」と言ってい。一步を踏み出す勇気をイエスさまの姿から感じ取ってほしい。

★ 説教作成のヒント

・死の先に復活の命があることを教えて下さったイエスさま。だからこそ、イエスさまが共に居て下さることを知らされた時、私たちは尽きることのない命に生かされはじめる。そして、イエスさまの御心を実現する者は、困難の中にあっても神さまからの力に支えられていく。

・「イエスさまのため」、イエスさまの願いとは神さまの御心を実現することである。

★ 豆知識

・ユダヤ人社会から異端宣告を受けていた主イエスを信じることで、分裂が起こる事は避けられない。「剣をもたらず」とは、そのことを指す。しかし、旧約聖書には「彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない」（イザヤ2:4）と記されている。主イエスにとって、剣は人を殺める武器ではない。「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい」（エフェソ6:17）と書いてある通り、人を真に生かすための道具である。

・「小さな者」を、教会では「弱い立場の人」として、子ども、女性、高齢者、障害者、病人、失業者などの状況が考えられてきた。また、これらの人々を援助することは教会の務めであり、神の国を受け継ぎ、永遠の命に至る道であるとされてきた。イエスさまは弟子たちを「小さな者」と呼んでいる。「この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける」（マタイ10:42）と言われている通り、イエスさまが助けられる側におられることを覚えたい。

★ 説教

あなたには大好きな人がいますか？お父さんやお母さん、兄弟やお友達。誰の顔が思い浮かぶでしょうか。大切な人がいることは、とても素敵なことです。

ところで、少し考えてほしいことがあります。もし、あなたのお好きな人が、他のお友達に意地悪をしていたなら、あなたは「駄目だよ」と、しっかりと教えてあげることができるでしょうか？

注意したら、喧嘩になってしまうかもしれませんし、嫌われてしまうかもしれません。大好きな人に嫌われることは、とても苦しいことだから、「駄目だよ」と伝えることはとても勇気がいらいます。「今度は自分が意地悪をされてしまうかもしれない」と思って、何も言えなくなることもあります。

でも、意地悪をされているお友達は、あなたが大好きな人に嫌われることよりも、意地悪されることでもっと苦しい思いをしているかもしれません。あなたが黙ってしまったら、助けてくれる人がいなくて独りぼっちになってしまいます。そのとき、あなたは大好きな人に「駄目だよ」と伝えることができますか？

イエスさまは、お弟子さんたちと一緒に旅をしていたときに、たくさん苦しんでいる人た

ちと出会いました。誰も助けてくれず通り過ぎてしまいます。その人たちは独りぼっちで我慢するしかありませんでした。

けれども、イエスさまは苦しんでいた人たちの前で立ち止まり、その手をとって、優しくされました。そして、大変な思いをしていた人を無視して通り過ぎていた者たちに、「神さまは、この人たちを大切にしているのだから、あなたも同じように大切にしてください」と伝えられたのです。助けられた人たちはイエスさまからとっても元気づけられたのです。

そのイエスさまを、注意された人たちは嫌がりました。みんな自分が正しいと思い込んでいたからです。イエスさまはとても優しい人でしたが、最後にはイエスさまを嫌がる人だから十字架にかけられてしまったのです。

私たちは知っています。「神さまは、意地悪は喜はず、困っている人たちを大切にしてほしいと思っている」ということを。

意地悪をしている人に「駄目だよ」ということは、とても勇気がいるかもしれません。でも、イエスさまが人を大切にされたように、私たちも大変な思いをしている人を大切にしたいのです。その姿を見て、イエスさまはとっても喜んでくださいますし、きっとあなたに勇気をくださいます。イエスさまはあなたといつも一緒に居て下さいます。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 番

改訂 4 9 番

やってみよう

*今日のお話しにあるように、もしもおともだちが、いじめられていたり、そうでなくてもつまらなそうにしていたり、みんなと一緒にいても 大変そうだったりする時に、どうしたらよいのでしょうか。

- 1) 本当の学校でそういうことがあれば、皆に話してみましよう。皆で、どんなふうにしたらそのおともだちが楽しくなれるか考えてみましよう。どんなふうに声をかけますか？ その言葉を皆で考えてメモしましよう。
- 2) さっきのメモを元に、いじめているお友達の役 いじめられているお友達の役 それをみているお友達の役 に分かれてお芝居をしてみましよう。
- 3) それぞれの役をやってみてどんな気持ちになったか 感想を伝え合いましよう。
(時間があれば、役割を代えて再び 体験してもよい。)

話してみよう

- I. ①「いじめ」が身の回りにあるか？また、その時に自分ならどうするかを考える。
②自分がいじめられていたとしたならば、どんな気持ちになり、友達にはどのように関わってほしいと思うのか？
- II. イエスさまがしてくださったように、人を大切にする。
間違っていることに立ち向かい、勇気をもって一言「駄目だよ」と伝えてみよう。

★今週の聖句

「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい」

マタイによる福音書 11章 29節

★ねらい

・一人では耐えきれない重荷を、一緒に背負ってくれる人が居る有り難さ。何よりも、私たちの重荷をイエスさまと一緒に背負って下さることを伝える。

★ 説教作成のヒント

- ・写真や絵を用いると「軛」を説明できるし、語り方をイメージし易いように思う。
- ・自分自身が「共に居てもらった」ことの感謝を思い起こしながら考えてみる。

★ 豆知識

・重荷とは何であろうか。生まれ落ちた環境や状況、出会いや関係の破れ。失敗や挫折、罪や後悔。一人ひとり重荷は違うし、量ることのできないものである。

・重荷はしんどい。しかし、それは自らの人生に与えられたものである。神さまが片棒を担いでくださるならば、重くとも背負って歩いて行くことができる。過去を捨て去るのではなく、神さまに助けをもらいながら背負い歩いて行く道があることは幸いである。苦しさを身に染みて感じる時、人は優しさを知らされる。

・Iコリント10章13節には、「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはず。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」と書かれている。重荷もまた、それぞれに引き受けられることを神さまは信じ、期待してくださっている。

★ 説教

『believe』という合唱曲があります。

1番は「たとえば君が傷ついて くじけそうになった時は かならず僕がそばにいて ささえてあげるよ その肩を」。2番は「もしも誰かが君のそばで 泣きだしそうになった時は だまって腕をとりながら いっしょに歩いてくれるよね」という歌詞です。

一人だけだったら苦しいことや悲しいことは、我慢できないかもしれないけれど、誰かが一緒にいてくれるなら元気が湧いてきます。「優しさがみんなに広がっていきますように」という願いが込められた歌です。

イエスさまは「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい」(マタイ11:29)とされています。昔は、畑を耕すための便利な機械はありませんでした。だから、二頭の牛に土を耕すための道具を引っ張らせていましたのです。「軛」というのは、二頭の牛が離れないように繋ぐための木のことで。一頭のだけでは重くても、二頭の力なら引っ張ることができます。つまり、イエスさまは「あなたの苦しいことや悲しいことを、わたしが一緒に背負ってあげるよ」と言って下さっているのです。

私たちはいつも元気いっぱいなわけではありません。喧嘩して苦しくなったり、怒られて悲

しくなったり、お別れで寂しくなったりします。一人では我慢できないくらい辛くなる時もあるかもしれません。

でも、イエスさまは、そのような時に私たちと一緒にいて、支えて下さると約束してくださっています。とても苦しいときに、イエスさまと一緒にいてくださるなら、これほど心強いことはありません。

同じように、そばにいるお友達も、元気がなくなることがあります。私たちはそのような時にイエスさまと一緒にいてくださることを今聴きましたが、お友達は知らないかもしれません。その時には、あなたがイエスさまの代わりに、お友達と一緒にいて支えてあげてください。あなたの優しさが、お友達を元気にするはずです。そして、今度はそのお友達が、誰かに元気をあげられるようになるかもしれません。そのように優しさがどんどん広がっていくことを、神さまはとっても喜んでおられます。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

6 1 番

改訂 1 3 0 番

やってみよう

<用意するもの>

・ 2ℓのペットボトル容器に水を入れたもの(5本～10本くらい：年齢に応じて調整)
もしくは百科事典などの重いもの ・ 大きめのふろしき or それに代わるもの

- ①用意した重い荷物をまずは一人で持って歩いてみる。
- ②二人～数人で持つてみる
- ③リーダーや高学年の大きい人に荷物ごとおんぶしてもらう。

それぞれに重い荷物を持った時の感想①～③を言ってもらおう。
イエス様はどんなに重い荷物でも一緒に背負ってくださるお方です。

話してみよう

- I. ①「背負いきれないほどの重荷」とは何か？
②一緒に背負うために、何が出来るか？
- II. 何もできなくていい。悲しむ人や苦しい思いをしている人に寄り添ってみよう。